



今を生きる社会人たちは、キャリアという大きな海を
どんな船に乗って航海しているのだろう。
港に立ち寄るさまざまな社会人たちの船=仕事から、
これからの仕事・働き方へのヒントを探ります。

ショート動画で切り拓く 学生寮の未来

ながせ しょうじ
株式会社拓北 寮長 **長瀬祥治**

1986年北海道江別市生まれ。京都産業大学卒業後、不動産会社を経てワーキングホリデーでオーストラリアのレストランへ。
27歳で実家である株式会社拓北を継ぎ、寮長を務めている。SNSで発信する調理動画が人気で、寮アカウントのフォロワーは3.5万人、個人は11.2万人。
(2026年6月現在 Instagram @takuhoku.dormitory / @lemmy9caution)

取材・文／今井夕華 撮影／竹内弘真

長瀬祥治さんのお仕事について

① 一番のやりがい

かつてここで暮らした学生さんが、まるで実家のように気軽に帰ってきてくれる瞬間。

② こだわっていること

動画編集は1本あたり15分以内と時間を決めて、集中して作業。週4ペースで投稿している。

③ こんな人におすすめ

業務が多岐に渡るので、枠にとらわれず何でもできるようにになりたいという成長意欲のある人。

家業を継ぎ代表になることで自分の「苦手」をうまく克服

北海道江別市に、SNSで話題を呼んでいる学生寮がある。キーパーソンは、株式会社拓北の長瀬祥治さんだ。

「もともと48年前に祖父母が始めた事業で、僕が27歳のときに引き継ぎました。僕は小さいころから人の言うことが聞けないタイプだったので、会社員だったときは仕事が長続きしなかったのですが、この仕事はもう12年。トップである『寮長』として、およそ160人が暮らす大学生向けの学生寮3棟（男子寮・女子寮・男女寮）を運営しながら、調理も担当しています」

進路を意識し始めたのは高校1年生。「日韓W杯の熱狂のなか、ゴールに沸く周囲と同調して大興奮している自分がいることに気がつきました。ふと冷静になっ



SNS運用については、撮影から編集、キャプション執筆、投稿まですべてを長瀬さん本人が1人で担当している。

て、その日常のモヤモヤを言語化したいと思ったんです。ハワイへの留学も視野に入れて準備をしていたのですが、父が倒れたことで国内進学に舵を切ることになった。京都の大学に進み、哲学を専攻しました。哲学の視点は、物事の本質を見極める力として、日々の仕事に生きています」

毎日の調理風景を撮影したショート動画が話題に

大学を卒業してからは、東京の不動産会社で営業や部屋の改装を経験した後、ワーキングホリデーでオーストラリアへ。

「レストランの厨房で働いていたのですが、母から男子寮の入居率が5割に下がったと連絡をもらいました。同じく家業をもつ境遇だった大学の恩師に相談したところ『継ぎなさい』と背中を押され、帰国を

決意。寮の立て直しとして、リノベーションから着手していきました。その結果、帰国3年後には男子寮の入居率は9割にまで回復。不動産会社、さらにはワーキングホリデーで培った知識や経験が大きな武器になりました」

立て直しの一環で、長瀬さんが取り組んだのがSNS運用。インスタグラムに、まかないでつくった明太子パスタの調理動画を上げたところ話題となり、フォロワーが激増した。

「ちょうどリールが始めたタイミングで、その波に乗った感じでしたね。しばらくは月に1〜2万人ずつフォロワーが増えていきました。やっぱり反響が大きいと嬉しいですね。手の込んだ料理だけでなく、まかない風景など何気ない動画が伸びることもあって、その意外性に面白さを感じ



長瀬さんは調理だけでなく、内覧対応や寮祭の企画など、寮長として幅広い業務を統括、担当している。

今は辛くても、大人になれば楽しいことがたくさんある

もし今学校に馴染めない人がいても、もう少しの辛抱だと話す長瀬さん。

「僕は大学時代に初めて気の合う先生と出会って、それがとても嬉しかったんです。今でも時々ご飯に行ったり、2人でフランス旅行をしたことも。今いる学校や環境が世界のすべてではありません。少し周りと合わなくても、決して焦らなくて大丈夫。大人になったら、きつと楽しいことがたくさんありますよ!」



取材した日の献立は麻辣湯。安心して預けてもらえるよう、親御さんたちに向けて毎週メニューをお知らせしている。